



Denka

Possibility
of
chemistry

2024年度(2025年3月期) 第2四半期 決算説明会資料

証券コード：4061

デンカ株式会社

2024年11月8日

- DPEに対する新規制適用の猶予期間が10月15日以降に延期
- クロロプレンゴム事業の抜本的対策は、今年度中を目途に検討中

(リリース)

- ・ 2024年10月2日 「当社米国子会社に対する米国環境保護庁による新規制適用の猶予期間について」
https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1260/20241002_denka_dpe.pdf

新規制の概要

- ・ アメリカ環境保護庁(EPA)が米国DPEを含むクロロプレンゴム製造施設に適用される新たな化学物質の大気排出規制を発表
- ・ 猶予期間：10月15日まで ⇒延長(※)
- ・ クロロプレンモノマー排出量の大幅な削減を求める内容

DPEの対応

内容自体の見直しを求める申立て

- ・ ワシントンDC米国連邦控訴裁判所に提起(決定は11月8日時点が出ていない)

猶予期間を90日間とすることの発効停止を求める申立て

- ・ ワシントンDC米国連邦控訴裁判所は却下
一方、ルイジアナ州環境品質局(LDEQ)は2年間の猶予期間を許可
- ・ DPEは米国第5巡回区連邦控訴裁判所に、以下二件を提起
 - LDEQによる猶予期間延長承認の法的有効性の確認を求める申立て
 - 審理期間中の新規制適用の差止めを求める緊急申立て

(※) 猶予期間(10月15日まで)が、審理期間中は延長

※ DPE (Denka Performance Elastomer LLC : 米国クロロプレンゴム製造子会社)

クロロプレンゴム事業の抜本的対策

- ・ 検討の方向性
変更なし(環境規制を含む事業性に基いた判断)
- ・ 検討期間
2024年12月末まで→
2025年3月末までを目途に変更

2024年度上期
決算概要
(P4-P13)

- 営業利益：94億円（前年比△11億円、期初予想比+9億円）
 - 純利益：34億円（前年比△32億円、期初予想比△6億円）
- 政策保有株式売却益 2023年度上期 +12億円 → 2024年度上期 +3億円

2024年度
業績予想
(P14-P17)

- 営業利益：180億円（期初予想から据え置き）
 - 純利益：90億円（期初予想から据え置き）
- ・半導体、xEV向けの需要回復遅れにより電子・先端プロダクツが想定を下回るも、他のセグメントが上振れの見通し
 - ・米国の新規制によるクロロプレンゴム製造設備の操業への影響および業績への影響は精査中
 - ・2024年度中に発表予定のクロロプレンゴム事業の抜本的対策による影響は未織り込み

株主還元
(P18)

- 配当予想：100円/株から変更なし（総還元性向96%）
2024年度中に発表予定のクロロプレンゴム事業の抜本的対策による影響を考慮した上で、来期以降のキャッシュフロー改善を見込む
- 今後の配当方針：総還元性向50%（経営計画8年間累計）を目安にしたうえで、1株当たり配当額の維持、増加を目指す

業績回復への
ポイント
(P19-P24)

- 電子・先端プロダクツの環境変化に対応した事業戦略
- ベストプラクティスプロジェクトによるコスト削減

2024年度(2025年3月期)第2四半期
決算概要

■ 営業利益は前年比マイナスも期初予想を上回る

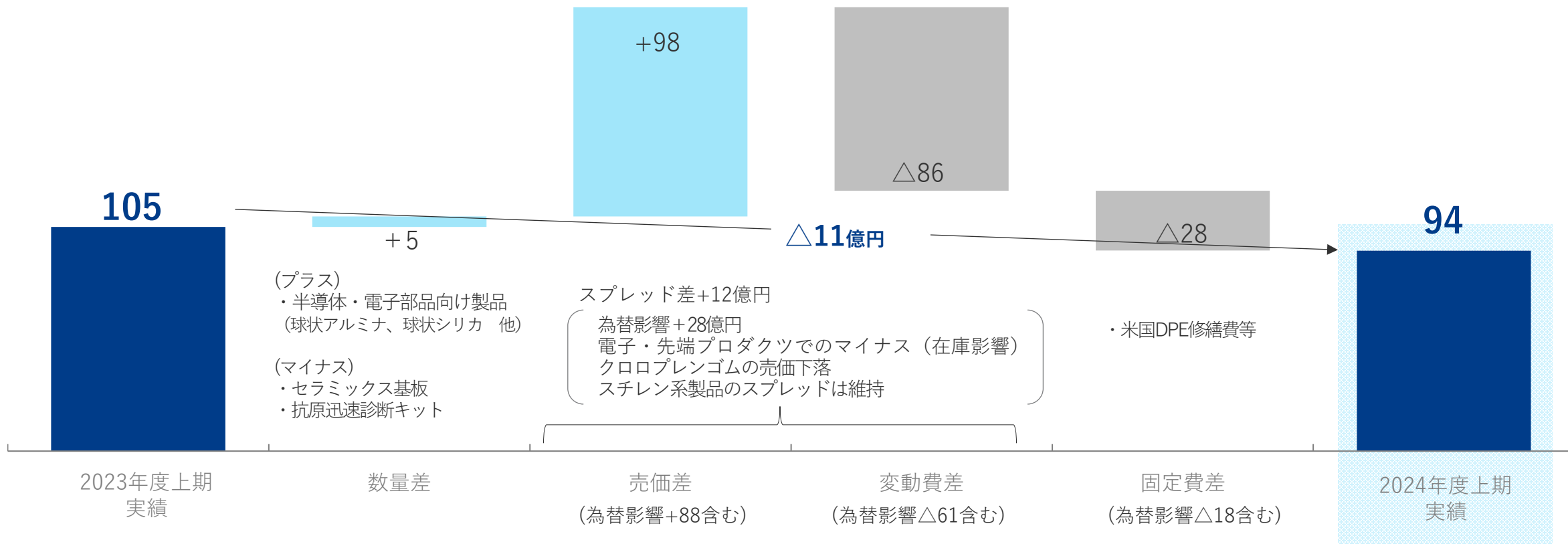
単位：億円	2023年度 上期実績	2024年度 上期実績	(前年比)	2024年度 上期 期初予想	(期初予想比)
売上高	1,914	1,991	+ 77	2,000	△ 9
営業利益	105	94	△ 11	85	+ 9
営業利益率	5.5%	4.7%	△ 0.8%	4.3%	+ 0.4%
経常利益	81	56	△ 25	50	+ 6
純利益	66 [※]	34[※]	△ 32	40	△ 6
為替レート (円/\$)	139.9	153.9		148.0	
国産ナフサ (円/Kリットル)	65,450	77,700		77,600	

※ 政策保有株式売却益 2023年度上期 +12億円 ⇒ 2024年度上期 +3億円

■ 半導体・電子部品向け製品の数量が増加したものの、米国DPE固定費の増加で減益

営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



■ ライフイノベーションとエラストマー・インフラソリューションが減益

単位：億円

売上高	2023年度 上期実績	2024年度 上期実績	増減	数量差	売価差
電子・先端プロダクツ	417	451	+ 34	+ 16	+ 18
ライフイノベーション	222	224	+ 2	+ 3	△ 1
エラストマー・インフラソリューション	572	564	△ 8	△ 12	+ 4
ポリマーソリューション	615	674	+ 60	△ 17	+ 77
その他/消去差	88	77	△ 11	△ 11	-
合計	1,914	1,991	+ 77	△ 21	+ 98

営業利益	2023年度 上期実績	2024年度 上期実績	増減	数量差	売価差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	49	49	+ 0	+ 12	+ 18	△ 29
ライフイノベーション	66	57	△ 9	△ 6	△ 1	△ 3
エラストマー・インフラソリューション	△16	△30	△ 14	△ 8	+ 4	△ 10
ポリマーソリューション	△3	6	+ 9	+ 4	+ 77	△ 72
その他/消去差	10	12	+ 2	+ 2	-	△ 0
合計	105	94	△ 11	+ 5	+ 98	△ 114

■ ライフイノベーション増益の一方、エラストマー・インフラソリューションが減益

単位：億円

売上高	2022年度				2023年度				2024年度		1Q比 (増減)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		
電子・先端プロダクツ	219	256	223	238	192	225	217	245	219	232	+	13
ライフイノベーション	64	155	169	88	72	150	158	90	78	146	+	68
エラストマー・インフラソリューション	304	325	316	293	280	292	286	256	292	272	△	20
ポリマーソリューション	316	320	303	337	298	317	309	319	326	349	+	23
その他/消去差	41	29	47	34	37	51	45	54	38	40	+	2
合計	944	1,086	1,058	988	878	1,035	1,015	964	952	1,038	+	86

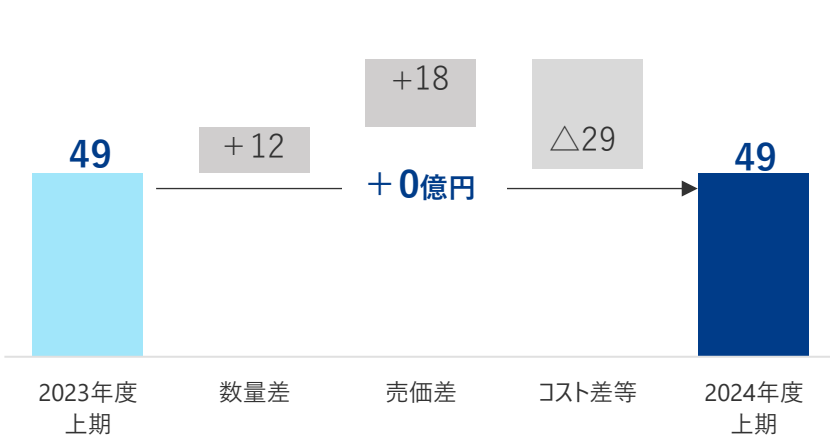
営業利益	2022年度				2023年度				2024年度		1Q比 (増減)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		
電子・先端プロダクツ	41	56	41	42	21	28	18	24	23	27	+	4
ライフイノベーション	5	60	50	28	9	57	31	20	17	40	+	23
エラストマー・インフラソリューション	△2	15	△13	△11	△7	△9	△39	△37	△2	△29	△	27
ポリマーソリューション	△1	△0	△9	△1	△0	△2	6	△4	3	4	+	1
その他/消去差	6	4	9	4	5	5	4	6	7	5	△	1
合計	49	134	78	63	28	77	20	8	47	47	△	0

■ 半導体・電子部品向けが需要回復も、セラミックス基板の販売減やコスト増加(為替影響・在庫影響)により前年並

※ TIM (Thermal Interface Materials : 放熱材料)

営業利益 差異分析(前年比)

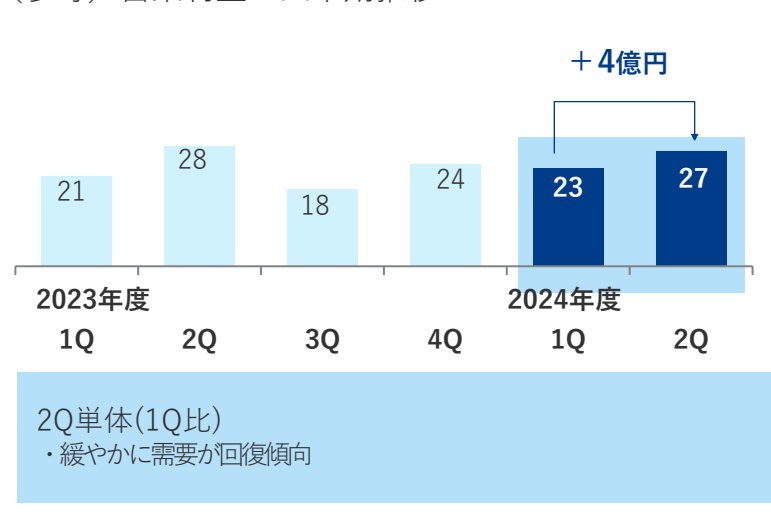
単位：億円



差異理由 (前年比)

品名	売上高	数量差	(用途別)			売価差
			半導体・電子部品	xEV	その他	
球状アルミナ	↑	↑	(TIM※用途) 需要回復により販売増 (放熱封止剤用途) 高速通信関連 (生成AIなど) の次世代メモリ向け採用拡大	欧米EV向け 低調により前 年並		↑ 為替 影響： プラス
球状シリカ	↑	↑	(封止材用途) メモリ以外の半導体は 緩やかに回復 (樹脂基板用途) 高速通信関連 (生成AIなど) の需要増			↑ 同上
高機能フィルム	↑	↑	メモリ以外の半導体と電子部 品向けは緩やかに回復			↑ 同上
アセチレン ブラック	↑	↑		同上	(高圧ケーブル向け) 欧州向け回復基調によ り販売増	↑ 同上
セラミックス基板 (窒化珪素、窒化アルミ)	↓	↓		主要ユーザ ーでの設計変更 により販売減	(電鉄向け) 前年並み	↓ 販売 構成差
コスト差等		↓	為替影響、在庫影響 (単価の高い期首在庫の影響)、他			

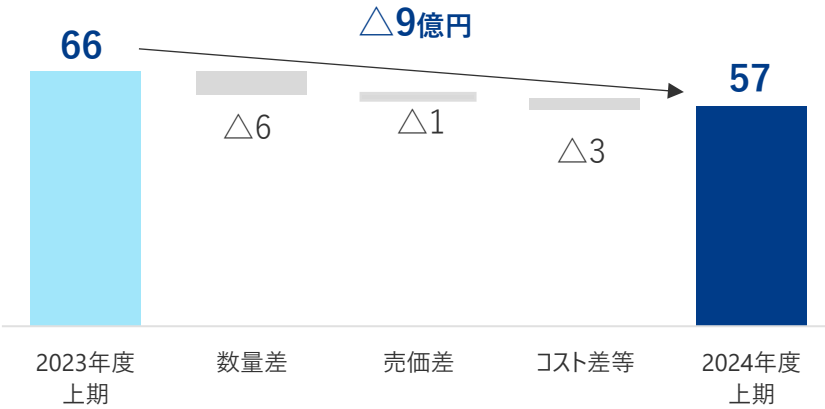
(参考) 営業利益 四半期推移



■ 同時流行（インフルエンザ・新型コロナ）した昨年と比べ、コンボキットの販売数量が減少し減益

営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



差異理由 (前年比)

項目	売上高	数量差	売価差
インフルエンザワクチン	↗	↗	→
抗原迅速診断キット	↘	↘	→
臨床試薬 (炎症マーカー等)	→	→	→
コスト差等	→	→	→

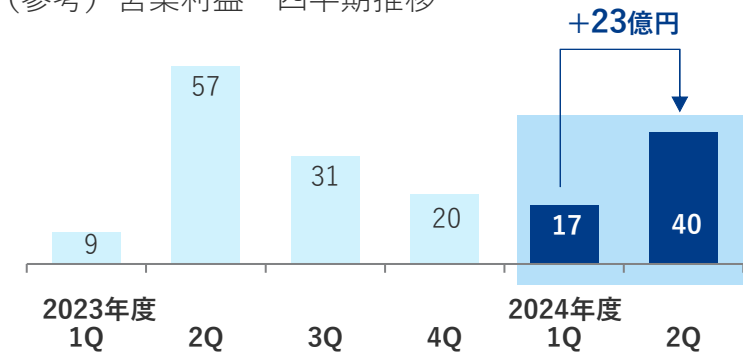
数量差

- インフルエンザワクチン: 前年と比べ上期中の出荷が増加(下期との期ずれ)
- 抗原迅速診断キット: インフルエンザと新型コロナが同時流行した昨年と比べ、コンボキットの販売数量が減少
インフルエンザ・新型コロナ以外を含む検査需要全体は依然旺盛で、フル稼働が継続

売価差

- 抗原迅速診断キット: 保険点数引下げの影響は軽微
- 臨床試薬 (炎症マーカー等): 前年並

(参考) 営業利益 四半期推移



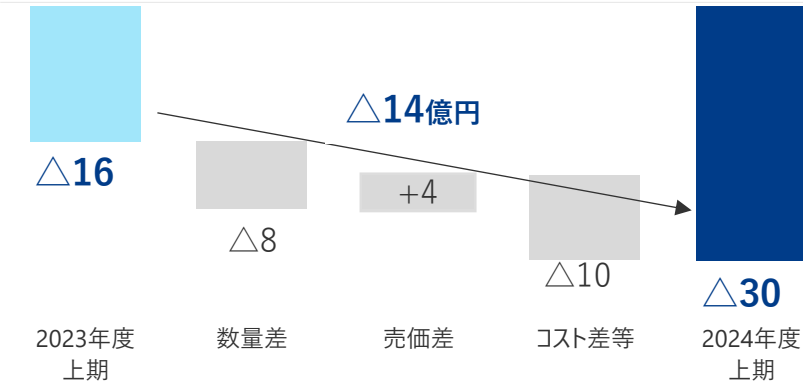
2Q単体(1Q比)

インフルエンザワクチン：計画通り9月より出荷開始
抗原検査迅速診断キット：出荷増

■ 米国DPEにおける固定費の増加と為替影響マイナスにより、コスト差が悪化

営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



差異理由 (前年比)

売上高

数量差

売価差

クロロプレングム



低調な需要が継続



特殊混和材



工事遅れなどにより販売減



セメント



前年並



前年並

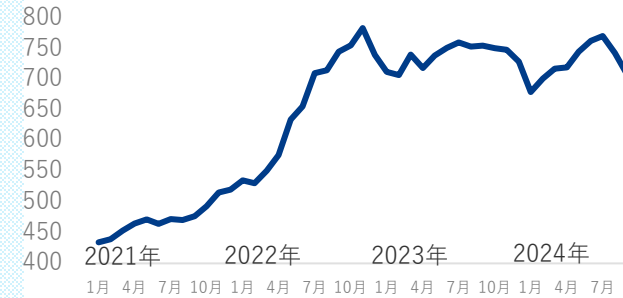
コスト差等



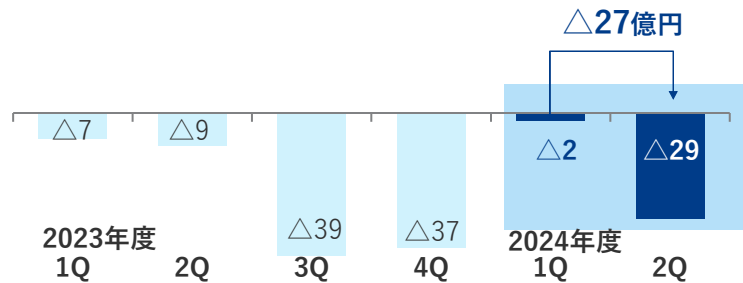
米国DPE：修繕費など固定費の増加、為替影響による悪化
セメント：石炭価格が下落（2023年度上期：\$ 154/t ⇒ 2024年度上期 \$ 138/t）

- ・ 為替影響：プラス
- ・ 為替除く影響：マイナス
他社品との競争激化により販売価格下落も、9月から順次値上げ

【通関統計】輸出単価（ドライ+ラテックス）（円/kg）



(参考) 営業利益 四半期推移



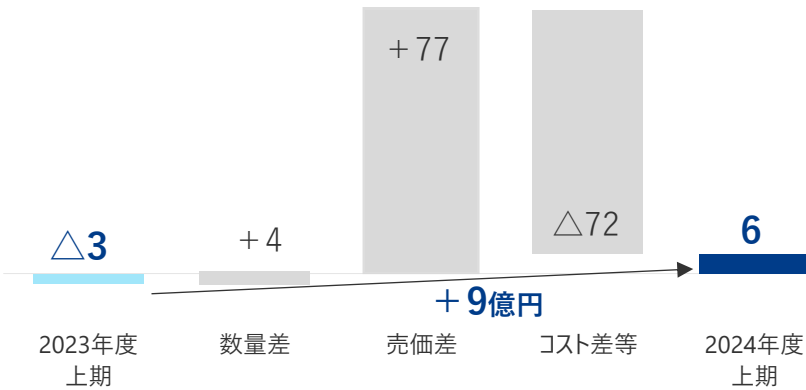
2Q単体(1Q比)：

クロロプレングム：昨年度末に在庫評価減を計上した在庫の払出影響、
米国DPEのコスト増加、販売数量減

■ 家電向け需要回復傾向により黒字化

営業利益 差異分析(前年比)

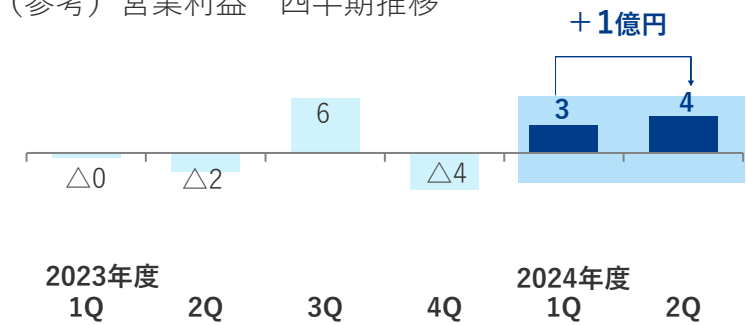
単位：億円



差異理由 (前年比)

	売上高	数量差	売価差
MS樹脂	↗	↗ (導光板用途) PCモニター向けも堅調	↗
AS・ABS・透明樹脂など	↗	↗ (家電用途) 中国向けにてユーザーでの在庫調整が進捗	↗ スチレン系製品： 原燃料価格上昇に伴う価格改定 (スプレッドは維持)
食包シート・容器	→	→ 前年並	↗
Toyokalon	→	→ 前年並	→ 前年並
コスト差等	↓	原燃料価格上昇により悪化 (スプレッドは維持)	

(参考) 営業利益 四半期推移



2Q単体(1Q比)：1Q並み

■ エラストマー・インフラソリューションが想定を下回るも、
ライフイノベーション、ポリマーソリューションが想定を上回り、全体では期初予想を上回る

単位：億円

売上高	2024年度 上期 期初予想	2024年度 上期実績	増減		数量差		売価差			
電子・先端プロダクツ	450	451	+	1	△	4	+	4		
ライフイノベーション	200	224	+	24	+	18	+	6		
エラストマー・インフラソリューション	600	564	△	36	△	55	+	19		
ポリマーソリューション	650	674	+	24	+	9	+	16		
その他/消去差	100	77	△	23	△	23	-	-		
合計	2,000	1,991	△	9	△	54	+	45		
営業利益	2024年度 上期 期初予想	2024年度 上期実績	増減		数量差		売価差		コスト差等	
電子・先端プロダクツ	50	49	△	1	△	11	+	4	+	5
ライフイノベーション	40	57	+	17	+	1	+	6	+	10
エラストマー・インフラソリューション	△15	△30	△	15	△	19	+	19	△	15
ポリマーソリューション	0	6	+	6	△	1	+	16	△	9
その他/消去差	10	12	+	2	+	2	-	-	△	0
合計	85	94	+	9	△	27	+	45	△	8

2024年度(2025年3月期)

業績予想

■ 期初予想から変更なし

単位：億円	2023年度 上期実績	2023年度 下期実績	2023年度 実績	2024年度 上期実績	2024年度 下期予想	2024年度 今回予想 (期初予想から 変更なし)	(前年比)
売上高	1,914	1,979	3,893	1,991	2,209	4,200	+ 307
営業利益	105	28	134	94	86	180	+ 46
営業利益率	5.5%	1.4%	3.4%	4.7%	3.9%	4.3%	+ 0.8%
経常利益	81	△26	55	56	64	120	+ 65
純利益	66	54	^{※1} 119	34	56	^{※2} 90	△ 29
為替レート (円/\$)	139.9	147.7	143.8	153.9	147.0	150.5	
国産ナフサ (円/Kリットル)	65,450	72,550	69,000	77,700	73,700	75,700	

※1：2023年度政策保有株式売却益 +174億円
Icon Genetics社に係るのれんの減損損失△68億円

※2：2024年度政策保有株式売却益+3億円

- 電子・先端プロダクツが需要回復遅れにより想定を下回る見通しも、他のセグメントが上振れる見通し
- 米国の新規制によるクロロプレンゴム製造設備の操業への影響および業績への影響は精査中
- 2024年度中に発表予定のクロロプレンゴム事業の抜本的対策による影響は未織り込み

営業利益 (単位：億円)	上期 実績	下期 予想	通期 予想	期初予想比	進捗状況
電子・先端プロダクツ	49	51	100	△20	半導体、xEV関連製品：需要回復を下期に想定も、回復遅れの見通し セラミックス基板：販売が想定を下回る見通し
ライフソリューション	57	43	100	+10	抗原検査キット：保険点数引下げによる影響が軽微であることから 想定を上回る見通し
エラストマー・ インフラソリューション	△30	△25	△55	±0	（新規制適用の猶予期間が10月15日以降に延期 クロロプレンゴム事業の抜本的対策は、今年度中に発表予定（P2参照）
ポリマーソリューション	6	9	15	+10	家電向け需要回復やコストの減少などにより想定を上回る見通し
その他/消去差	12	8	20	±0	
合計	94	86	180	±0	

■ 期初予想から変更なし

単位：億円

	設備投資・投融資額				減価償却費				研究開発費			
	上期（前年比）		通期（期初予想比）		上期（前年比）		通期（期初予想比）		上期（前年比）		通期（期初予想比）	
	2023年度	2024年度	2024年度		2023年度	2024年度	2024年度		2023年度	2024年度	2024年度	
	上期実績	上期実績	期初予想	今回予想	上期実績	上期実績	期初予想	今回予想	上期実績	上期実績	期初予想	今回予想
電子・先端プロダクツ	82	150	480		44	47	96		27	28	60	
ライフイノベーション	14	48	100		19	16	30		23	21	60	
エラストマー・ インフラソリューション	46	48	80	変更なし	43	46	90	変更なし	14	13	25	変更なし
ポリマーソリューション	23	34	40		25	26	50		12	12	25	
その他/消去差	-	0	-		2	2	4		2		-	
合計	165	280	700		134	137	270		78	74	170	

■ 配当予想は100円/株から変更なし

年度内発表予定のクロロプレノゴム事業の抜本的対策による影響を考慮の上、来期以降のキャッシュフロー改善を見込む

		2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 通期予想
当期純利益	(億円)	250	227	228	260	128	119	90
1株当たり配当	(円/株)	120.0	125.0	125.0	145.0	100.0	100.0	100.0 (中間50.0 期末50.0)
配当額	(億円)	105	108	108	125	86	86	86
配当性向		42%	48%	47%	48%	68%	72%	96%
自己株取得	(億円)	21	-	-	-	-	-	-
総還元額	(億円)	126	108	108	125	86	86	86
総還元性向		50%	48%	47%	48%	68%	72%	96%
減価償却額	(億円)	229	225	229	239	270	269	270
設備投資・投融資額	(億円)	328	369	423	356	394	437	700
有利子負債残高	(億円)	1,121	1,343	1,382	1,370	1,697	1,744	2,090
ネットDEレシオ		0.40倍	0.42倍	0.42倍	0.40倍	0.50倍	0.45倍	0.60倍
ROIC		7.8%	6.6%	6.8%	7.3%	6.7%	2.5%	3.0%
ROE		10.3%	9.1%	8.8%	9.4%	4.4%	4.0%	2.9%

- 業績回復へのポイントは「クロロprenゴム事業の抜本的対策」「電子・先端プロダクツの環境変化に対応した事業戦略」「ベストプラクティスプロジェクトの進捗」の3つ。2025年度以降の回復と更なる成長へ繋げる

① クロロprenゴム事業の抜本的対策

- 2024年度内に発表

② 電子・先端プロダクツの環境変化に対応した事業戦略

- 半導体：現用途でのトップシェア維持と、先端半導体市場におけるキーマテリアルとしてデファクト化確立
- xEV：当社の強みである「放熱・導電・絶縁」素材にて、市場でのトップシェアを確保
- 高圧ケーブル：継続成長市場での環境・コストの両面で最適な4拠点安定生産体制の確立

③ ベストプラクティスプロジェクトによるコスト削減

- コスト削減 2026年度：100億円以上

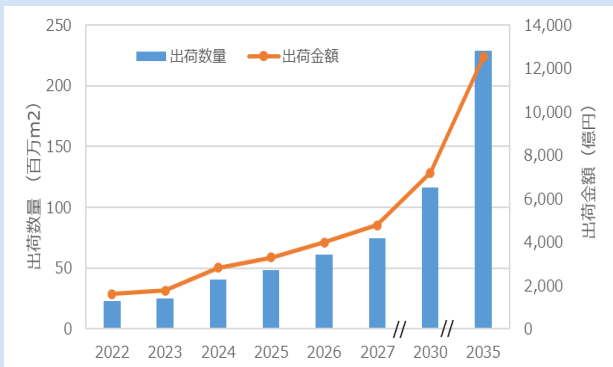
■ 事業戦略：現用途でのトップシェア維持と、先端半導体市場におけるキーマテリアルとしてデファクト化確立

市場の見通し

環境変化

- ・ 生成AIの普及などによる先端半導体市場の急拡大と要求品質の高度化
- ・ 汎用半導体市場の緩やかな回復

多層基板用低誘電CCL市場



出展：富士キメラ総研23年11月6日

各製品における戦略

今後の方針・戦略

球状シリカ

半導体封止材用途でのトップシェア維持と、次世代高速通信向け回路基板用途でのデファクト化推進

(回路基板向け売上高比率：50%目標)

球状アルミナ

TIM用途でのトップシェアを維持と、放熱封止材用途を中心に、先端パッケージや次世代通信基地局向けでのデファクト化確立

(高放熱封止材向け売上高比率：30%目標)

スネクトン
(低誘電有機絶縁材料)
【新製品】

通信量増加に対応するキーマテリアルとして採用拡大と、次世代グレードの開発・上市

低誘電関連素材での
目標売上高：200億円（2030年以降）

TBM
(半導体製造工程用
仮固定接着剤)
【新製品】

パワー半導体向け拡販と、アドバンスドパッケージ対応グレードの開発

現状

- ①半導体封止材用途：
高スペック分野を中心に市場をリード顧客にとって第一の素材相談窓口としての地位を維持しトップシェア（30%）継続
- ②回路基板用途（高速通信向け）：
低誘電正接グレードの採用拡大中

- ①TIM用途（通信基地局、サーバ向け等）：
高放熱要求を満たしトップシェア（60%）
- ②放熱封止材用途：
高速通信の次世代メモリ向けで採用拡大中

高速通信用の銅張積層板（CCL）、層間絶縁材料向けに採用進行中
(複数社で承認済、2025年1月上市予定)

パワー半導体製造での仮固定材料として各社で採用確定、2025年1月上市予定

■ 事業戦略：当社の強みである「放熱・導電・絶縁」素材にて、市場でのトップシェアを確保

市場の見通し

環境変化

- ・ 中国EV車のシェア拡大
- ・ BEV市場の成長鈍化

EV市場



各製品における戦略

今後の方針・戦略

アセチレン
ブラック

LiB正極材の導電助剤向けとして、
新製造拠点（タイ）稼働によるEV市場拡大
対応とシェア拡大（30%超）

- 中国EV向けへの拡販強化
- アセチレンブラックとCNT(*)の混合仕様での拡販
- 全固体電池などの次世代電池での採用

(*)CNT：カーボンナノチューブ

球状アルミナ

LiB用放熱材向けでのシェア維持と、
車載電装向け放熱用途（OBC(*)など）での
デファクト化確立

(*)OBC：オンボードチャージャー

窒化珪素（粉）

xEV用放熱基板向け、ベアリング向けともに
拡大する市場に対応し、No.1サプライヤーポ
ジションを堅守（追加投資を検討中）

セラミックス基板
（窒化珪素基板）

高熱伝導化などの特徴出しに注力
コスト競争力を活かし、市場での地位確立

現状

正極材の導電助剤向けとして一定のシェアを維持（30%）

- 日欧米韓でのEV向けが中心
- アセチレンブラックとCNTの混合仕様の評価が広がる

①LiB用放熱材向けとして一定のシェアを維持（安価材との競争）

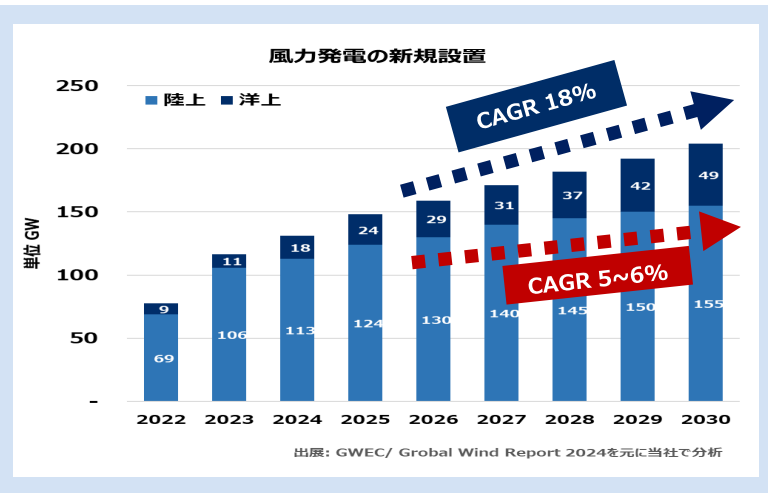
②急速充電対応としてOBC向けにてトップシェア

xEV用放熱基板向け、ベアリング向けともに市場が拡大、No.1サプライヤーポジションを継続

回路基板販売において競争激化

■ 事業戦略：継続成長市場での環境・コストの両面で最適な4拠点安定生産体制の確立

市場の見通し



アセチレン
ブラック

今後の方針・戦略

新製造拠点（タイ）稼働により安定供給体制を確立し、高圧ケーブル用途にてデファクトを維持

現状

高圧ケーブル向けのデファクト維持
洋上風力発電や長距離送電網の需要拡大（足元では欧州での工事遅れから需要回復傾向）

アセチレンブラック：タイでの新規製造拠点（第4拠点）の妥当性

ベストシナリオ

xEV向け： 26年タイ工場の生産開始時期にEV向けでの本格的な需要拡大 高圧ケーブル向け： 直流・高電圧トレンドで需要拡大	対応： 新拠点を含めた4拠点での最適地生産による生産の最大化 更なる生産能力増も検討
---	--

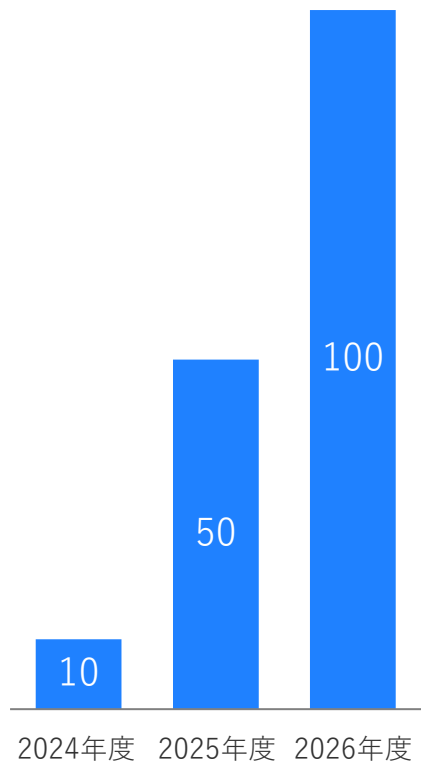
ワーストシナリオ

xEV向け： 需要拡大の停滞継続 高圧ケーブル向け： 地上送電Pjの計画遅延	対応： CO2排出量、生産コストを考慮した最適生産を実現
---	---------------------------------

ワーストシナリオにおいても事業成長（利益拡大）を計画可能

- ベストプラクティスプロジェクトでは、2026年度 100億円/年のコストダウン達成へ向け各施策を推進中
- 2024年度は競争環境醸成やユーティリティの契約見直し等により10億円のコストダウン目途がついた

目標



2026年度 100億円に向けて

施策	施策概要	目標額
原価低減	<ul style="list-style-type: none"> • 設計変更や部材標準化による原材料コスト適正化 • 購買組織強化、デジタル化をベースとした調達システム強靱化 • 科学的アプローチによる保全業務のTBM→CBM¹化 	30億円
サプライチェーン改革	<ul style="list-style-type: none"> • 物流ネットワーク最適化 (SP² 統合、他社との連携) • 物流サービスレベルの適正化 	20億円
販売経費低減	<ul style="list-style-type: none"> • 競争環境の醸成や集約化による単価低減 • 全社ルールの導入・改訂による量・経費単価の適正化 	15億円
労働生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> • ゼロベースでの業務・役割分担・内外製の見直し、階層適正化 • 上記で生じた余剰人員の強化領域への再配置 	15億円
投資コストの適正化	<ul style="list-style-type: none"> • 必要性精査、集約化、競争環境の醸成等によるコスト適正化 	10億円
グループ会社への展開	<ul style="list-style-type: none"> • 本体で設計した施策の子会社でのフル活用 • コスト削減手法のグループ全体でのナレッジ化 	10億円

100億円

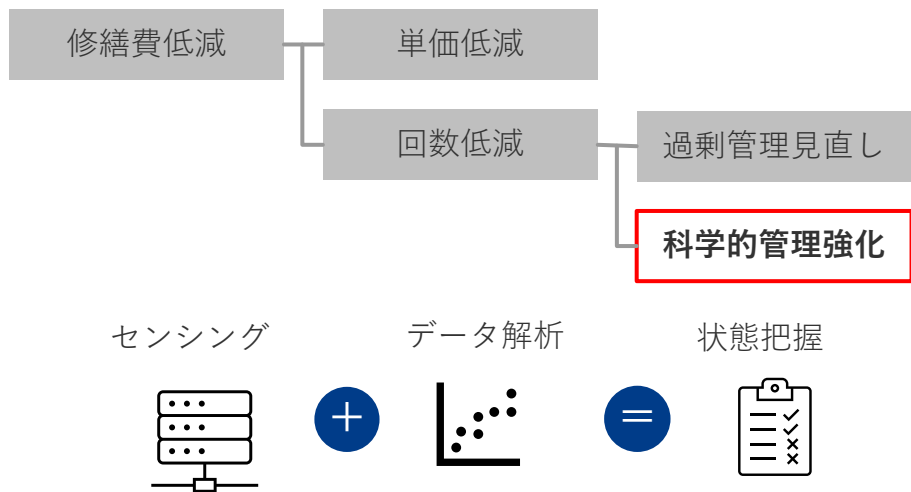
1. TBM : Time Based Maintenanceの略、CBM : Condition Based Maintenanceの略 2. SP : Stock pointの略

■ 外部コンサルタントの知見を活かし、一人ひとりがコストコントロール力を身に付け、スピード感をもって愚直にやり抜く

事例①：修繕費低減

適正化余地

機器の摩耗・損傷度の計測データ不足から、定期保全で設備の健全性を担保しており改善余地あり



- センシング・データ解析により機器のコンディションを把握
- 定期保全（TBM）から状態基準保全（CBM）にシフト

保全回数の適正化によるコスト低減を実現

事例②：契約電力（上限値）の適正化

適正化余地

契約電力と実績電力に差分があり、電力消費量の予測精度向上による改善余地あり



- 前年実績に生産量・設備増減、外気温変動の予測を反映
- 電力量リアルタイム監視・電力ひっ迫時の対応マニュアル確立

契約電力の適正化によるコスト低減を実現

単位：億円

売上高	2023年度 実績	2024年度 今回予想 (内訳のみ変更)	増減		数量差		売価差	
	電子・先端プロダクツ	878	950	+	72	+	50	+
ライフイノベーション	471	450	△	21	△	13	△	8
エラストマー・インフラソリューション	1,114	1,200	+	86	+	125	△	38
ポリマーソリューション	1,242	1,400	+	158	+	42	+	116
その他/消去差	188	200	+	12	+	12		-
合計	3,893	4,200	+	307	+	216	+	91

営業利益	2023年度 実績	2024年度 今回予想 (内訳のみ変更)	増減		数量差		売価差		コスト差等	
	電子・先端プロダクツ	90	100	+	10	+	34	+	22	△
ライフイノベーション	117	100	△	17	△	15	△	8	+	6
エラストマー・インフラソリューション	△93	△55	+	38	+	55	△	38	+	21
ポリマーソリューション	△1	15	+	16	+	8	+	116	△	107
その他/消去差	20	20	△	0	△	0		-	△	0
合計	134	180	+	46	+	81	+	91	△	126

単位：億円

売上高	2024年度 期初予想	2024年度 今回予想 (内訳のみ変更)	増減		数量差		売価差	
電子・先端プロダクツ	1,000	950	△	50	△	55	+	5
ライフイノベーション	450	450	±	0	△	7	+	7
エラストマー・インフラソリューション	1,200	1,200	±	0	±	0	±	0
ポリマーソリューション	1,350	1,400	+	50	+	35	+	15
その他/消去差	200	200	±	0	±	0		-
合計	4,200	4,200		±0	△	27	+	27

営業利益	2024年度 期初予想	2024年度 今回予想 (内訳のみ変更)	増減		数量差		売価差		コスト差等		
電子・先端プロダクツ	120	100	△	20	△	24	+	5	△	1	
ライフイノベーション	90	100	+	10	△	9	+	7	+	12	
エラストマー・インフラソリューション	△55	△55	±	0	±	0	±	0	±	0	
ポリマーソリューション	5	15	+	10	△	4	+	15	△	1	
その他/消去差	20	20	±	0	+	0		-	△	0	
合計	180	180		±	0	△	37	+	27	+	10

売上高 単位：億円	2022年度				2023年度				2024年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	下期予想 (3Q・4Q)
電子・先端プロダクツ	219	256	223	238	192	225	217	245	219	232	499
ライフソリューション	64	155	169	88	72	150	158	90	78	146	226
エラストマー・インフラソリューション	304	325	316	293	280	292	286	256	292	272	636
ポリマーソリューション	316	320	303	337	298	317	309	319	326	349	726
その他 / 消去差	41	29	47	34	37	51	45	54	38	40	123
合計	944	1,086	1,058	988	878	1,035	1,015	964	952	1,038	2,209

営業利益 単位：億円	2022年度				2023年度				2024年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	下期予想 (3Q・4Q)
電子・先端プロダクツ	41	56	41	42	21	28	18	24	23	27	51
ライフソリューション	5	60	50	28	9	57	31	20	17	40	43
エラストマー・インフラソリューション	△2	15	△13	△11	△7	△9	△39	△37	△2	△29	△25
ポリマーソリューション	△1	△0	△9	△1	△0	△2	6	△4	3	4	9
その他 / 消去差	6	4	9	4	5	5	4	6	7	5	8
合計	49	134	78	63	28	77	20	8	47	47	86

業績予想の適切な利用に関する説明

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

世界に誇れる、化学を。

Denka

本資料に関するお問い合わせ先
デ ン カ 株 式 会 社
コーポレートコミュニケーション部

TEL

03-5290-5511

URL

<https://www.denka.co.jp>